

【意見】

県や市のバイオマスタウン構想などは非常に小規模な計画ではないかと思いますが、現在、赤城山に大型の木質バイオマス発電所の計画が着実に進んでいます。私達は「赤城南麓の環境と木質バイオマス発電を考える会」として、放射性物質が付着した間伐材を燃やすのは放射能の二次拡散につながる不安、心配があるとして、凍結を、事業者、県、市に訴えておりますが、だれも耳を傾けてはくれません。県民の健康や動植物の環境への影響など本当に心配でなりません。

福島の高町、日光市などの大型バイオマス発電は、そういった不安などから計画が中止されてきております。

先日の県交渉の際は、群馬県独自の環境保全モデルと作って欲しいなど訴えかけましたが、全く聞き入れてはもらえませんでした。

放射能汚染前ならば、又は汚染されていない九州などであれば、そういう発電も考えられると思いますが、汚染だらけの群馬の木は、放射性廃棄物と同等であると個人的には考えております。

市長どうか、お力をお貸してください

男性50代：市外在住

【回答】

木質バイオマス発電は、豊富な森林資源を有する本県では有効な発電方法の一つであります。現在、民間事業者が計画している大型の木質バイオマス発電所についても、間伐材の利用に伴う森林整備の推進や地球温暖化防止の観点から有効であると考えます。

一方、福島原子力発電所事故による放射能の影響は、東北・関東地方に及んでおり、ご心配のとおり、本県も影響を受けている県の一つであります。放射能の影響は、各県によって異なり、県内の市町村においても国から汚染状況重点調査地域の指定を受け、対策を講じた自治体も有りますが、状況は必ずしも同じではありません。

以上のことから、本件については、前橋市において協議がなされていると思いますが、使用する間伐材の状態や焼却灰の管理などについてご心配されている皆さんの不安が払拭されるよう事業者側から説明がなされ、県民の健康や動植物への影響がないよう検討されることを望みます。

担当：市民部環境課環境係